



Red Hat Ansible Automation Platform 2.1

Red Hat Ansible Automation Platform のアップ グレードおよび移行ガイド

最新バージョンの Ansible Automation Platform にアップグレードし、以前の仮想環境を自動化実行環境に移行

Red Hat Ansible Automation Platform 2.1 Red Hat Ansible Automation Platform のアップグレードおよび移行ガイド

最新バージョンの Ansible Automation Platform にアップグレードし、以前の仮想環境を自動化実行環境に移行

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Red_Hat_Ansible_Automation_Platform_Upgrade_and_Migration_Guide.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

フィードバックの提供 本書を改善するためのご意見がある場合や、エラー発見した場合は、テクニカルサポートに 連絡して Docsコンポーネントを使用して Ansible Automation Platform Jira プロジェクトで問題を作成してください。

目次

第1章 RED HAT ANSIBLE AUTOMATION プラットフォームへのアップグレード	3
1.1. アップグレードの計画	3
1.2. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM インストーラーの選択および取得	3
1.3. インベントリーファイルの設定	4
1.4. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM インストーラー設定スクリプトの実行	5
第2章 自動化実行環境へのアップグレード	6
2.1. 仮想環境を自動化実行環境に移行	6
2.1.1. カスタムの仮想環境の構築	6
2.1.2. カスタムの仮想環境に関連付けられたオブジェクトの表示	6
2.1.3. エクスポートするカスタムの仮想環境の選択	7
2.2. 追加情報	8

第1章 RED HAT ANSIBLE AUTOMATION プラットフォームへのアップグレード

Red Hat Ansible Automation Platform を新しいバージョンにアップグレードするには、目的のバージョンの Ansible Automation Platform インストーラーをダウンロードします。以前のインストールと同じパラメーターを使用して設定し、新しいパラメーターを構成してから、インストーラーを実行します。

Ansible Automation Platform の他のコンポーネントのアップグレード時には（自動化コントローラーなど）、他の設定が必要になる場合があります。以下のセクションでは、これらの手順の詳細を説明します。

1.1. アップグレードの計画

インストールによっては、Red Hat Ansible Automation Platform のアップグレード試行時にいくつかの変更を考慮する必要があります。

自動化コントローラーのアップグレード

自動化コントローラーインスタンスを Ansible Automation Platform と共にアップグレードする予定の場合は、以下の情報を確認してください。

- 以前のバージョンの有効なライセンスをお持ちの場合でも、最新バージョンの自動化コントローラーにアップグレードする際には、認証情報またはサブスクリプション manifests を指定する必要があります。『Automation Controller ユーザーガイド』の [サブスクリプションのインポート](#) を参照してください。
- Red Hat Enterprise Linux と自動化コントローラーをアップグレードする必要がある場合は、自動化コントローラーデータのバックアップおよび復元を行う必要があります。詳細は、[Tower のバックアップおよび復元](#) を参照してください。
- クラスター形式のアップグレードでは、アップグレード前にインスタンスとインスタンスグループに特に留意が必要です。詳細は、[クラスタリング](#) を参照してください。

アップグレードの計画時に必要な変更が完了したら、Ansible Automation Platform インストーラーの必要なバージョンをダウンロードして続行します。

1.2. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM インストーラーの選択および取得

Red Hat Enterprise Linux 環境のインターネット接続に基づいて、必要な Ansible Automation Platform インストーラーを選択します。以下のシナリオを確認し、ニーズを満たす Red Hat Ansible Automation Platform インストーラーを決定してください。



注記

Red Hat カスタマーポータルで Red Hat Ansible Automation Platform インストーラーのダウンロードにアクセスするには、有効な Red Hat カスタマーアカウントが必要です。

インターネットアクセスを使用したインストール

Red Hat Enterprise Linux 環境がインターネットに接続している場合は、Ansible Automation Platform インストーラーを選択します。インターネットアクセスを使用してインストールすると、必要な最新のリポジトリ、パッケージ、および依存関係が取得されます。

1. <https://access.redhat.com/downloads/content/480> に移動します。
2. **Ansible Automation Platform <latest-version> Setup** の **Download Now** をクリックします。
3. ファイルを展開します。

```
$ tar xvzf ansible-automation-platform-setup-<latest-version>.tar.gz
```

インターネットアクセスなしでのインストール

インターネットにアクセスできない場合や、オンラインリポジトリから個別のコンポーネントおよび依存関係をインストールしたくない場合は、Red Hat Ansible Automation Platform の **Bundle** インストーラーを使用します。Red Hat Enterprise Linux リポジトリへのアクセスは依然として必要です。その他の依存関係はすべて tar アーカイブに含まれます。

1. <https://access.redhat.com/downloads/content/480> に移動します。
2. **Ansible Automation Platform <latest-version> Setup Bundle** の **Download Now** をクリックします。
3. ファイルを展開します。

```
$ tar xvzf ansible-automation-platform-setup-bundle-<latest-version>.tar.gz
```

1.3. インベントリーファイルの設定

Red Hat Ansible Automation Platform インストーラーを使用してアップグレードするには、インストーラーにあるインベントリーファイルを目的とする設定と同じように編集します。インベントリーファイルの編集時は、以前の Ansible Automation Platform 設定のインベントリーファイルパラメーターを使用して、そのまま以前と同じ設定を使用できます。また、新しいバージョンの Red Hat Ansible Automation Platform で導入されたインベントリーファイルで新しいパラメーターを有効にすることもできます。

手順

1. インストーラーに移動します。

バンドルのインストーラー :

```
$ cd ansible-automation-platform-setup-bundle-<latest-version>
```

オンラインインストーラー :

```
$ cd ansible-automation-platform-setup-<latest-version>
```

2. テキストエディターで **inventory** ファイルを開きます。
3. 以前のバージョンの Red Hat Ansible Automation Platform のインベントリーファイルと同じになるようにインベントリーファイルパラメーターを編集します。



注記

特定のインストールシナリオのインベントリーファイル要件に関する情報を確認するには、[Red Hat Ansible Automation Platform インストールガイド](#)を参照してください。

4. オプション:インベントリーファイルパラメーターを編集して、Red Hat Ansible Automation Platform の新しいバージョンで導入された新機能を有効にします。



注記

新機能とそれらを有効にする方法は、[Red Hat Ansible Automation Platform の製品ドキュメント](#)を参照して、特定の機能とその構成を検索してください。各バージョンリリースの機能の完全なリストについては、[Red Hat Ansible Automation Platform リリースノート](#)を確認してください。

1.4. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM インストーラー設定スクリプトの実行

以前の Ansible Automation Platform のインストールと一致するようにインベントリーファイルの更新が完了したら、セットアップスクリプトを実行できます。

手順

1. **setup.sh** スクリプトを実行します。

```
$ ./setup.sh
```

インストールが開始します。

第2章 自動化実行環境へのアップグレード

古いバージョンの自動化コントローラーから 4.0 以降にアップグレードすると、コントローラーは、組織、インベントリ、およびジョブテンプレートに関連付けられた以前のバージョンの仮想環境を検出して、新しい自動化実行環境モデルに移行する必要があることを通知します。自動化コントローラーを新たにインストールすると、インストール時に `virtualenv` が 2 つ作成されます。1 つ目はコントローラー自体を実行し、もう 1 つは Ansible の実行に使用されます。従来の仮想環境と同様に、自動化実行環境では、コントローラーを安定した環境で実行できますが、Playbook を実行するために必要に応じて、自動化実行環境にモジュールを追加または更新できます。

従来の `venvs` を自動化実行環境に移行

自動化実行環境に移行することで、以前のカスタム仮想環境と同一のセットアップを自動化実行環境で行うことができます。本セクションの `awx-manage` コマンドを使用して、以下を実行します。

- 現在のすべてのカスタムの仮想環境とそのパスを一覧表示する (`list_custom_venvs`)
- 特定のカスタムの仮想環境に依存するリソースの表示する (`custom_venv_associations`)
- 特定のカスタム仮想環境を、自動化実行環境への移行に使用できる形式にエクスポートする (`export_custom_venv`)。

以下のワークフローでは、`awx-manage` コマンドを使用して、古い `venvs` から自動化実行環境に移行する方法を説明します。

2.1. 仮想環境を自動化実行環境に移行

Red Hat Ansible Automation Platform 2.0 および自動化コントローラー 4.0 にアップグレードしたら、移行プロセスの追加手順について、以下のセクションを使用します。

2.1.1. カスタムの仮想環境の構築

`awx-manage` コマンドを使用して、自動化コントローラーインスタンスの仮想環境を一覧表示できます。

手順

1. 自動コントローラーインスタンスに SSH 接続して実行します。

```
$ awx-manage list_custom_venvs
```

検出された仮想環境の一覧が表示されます。

```
# Discovered virtual environments:
/var/lib/awx/venv/testing
/var/lib/venv/new_env
```

```
To export the contents of a virtual environment, re-run while supplying the path as an argument:
awx-manage export_custom_venv /path/to/venv
```

2.1.2. カスタムの仮想環境に関連付けられたオブジェクトの表示

`awx-manage` コマンドを使用して、カスタムの仮想環境に関連付けられた組織、ジョブ、インベントリソースを表示します。

手順

1. 自動コントローラーインスタンスに SSH 接続して実行します。

```
$ awx-manage custom_venv_associations /path/to/venv
```

関連付けられたオブジェクトの一覧が表示されます。

```
inventory_sources:
- id: 15
  name: celery
job_templates:
- id: 9
  name: Demo Job Template @ 2:40:47 PM
- id: 13
  name: elephant
organizations
- id: 3
  name: alternating_bongo_meow
- id: 1
  name: Default
projects: []
```

2.1.3. エクスポートするカスタムの仮想環境の選択

awx-manage export_custom_venv コマンドを使用して、エクスポートするカスタムの仮想環境を選択します。

手順

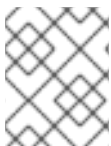
1. 自動コントローラーインスタンスに SSH 接続して実行します。

```
$ awx-manage export_custom_venv /path/to/venv
```

このコマンドにより、指定した仮想環境に含まれる **pip freeze** が表示されます。この情報は、Ansible Builder の **requirements.txt** ファイルにコピーして、新しい自動化実行環境イメージを作成するのに使用できます。

```
numpy==1.20.2
pandas==1.2.4
python-dateutil==2.8.1
pytz==2021.1
six==1.16.0
```

To list all available custom virtual environments run:
awx-manage list_custom_venvs



注記

'awx-manage list_custom_venvs' を実行して出力を減らしたときに **-q** フラグを渡しません。

2.2. 追加情報

- 自動化実行環境への移行に関する詳細は、[Red Hat Ansible Automation Platform Creator ガイド](#)を参照してください。